

# 読書の窓

## ～3月に読みたい本～

旧暦の3月は「弥生<sup>やよい</sup>」と読みます。「弥」は「いよいよ」という意味があり、「生」は「生い茂る」という意味があります。そのため、草木が生い茂る月という由来があるそうです。

やよい図書館がある中央本町センターの入口には「ソメイヨシノ」という種類の桜があります。3月の下旬頃から開花し、咲き誇ります。花や植物はまだ、肌寒い時期にも関わらず一生懸命に咲く姿は、生きる力強さを感じます。3月に読みたい本は、「動植物」や特色コーナーの詩からは「花」に関する生きもの達の力強さを感じる本を紹介します。紹介した本はやよい図書館で借りることができます。旧暦の3月と同じ名前のやよい図書館で、春の躍動を感じてみてはいかがでしょうか。

### 植物や動物も一生懸命に生きています！

#### 『夜桜』 清水洋志／著

3月といえば、花見！昼間の桜は儂げな雰囲気ですが、暗闇の中に浮かびあがる夜桜は一変した姿を現します。同書は妖しく、幻想的に咲き誇る美しい桜の様々な姿を写真に収めた写真集です。生命力にあふれた桜の魅力を新たな形で発見できる一冊です。

#### 『極限生物摩訶ふしぎ図鑑』 北村雄一／文・絵

地球には様々な生物や植物が共存しています。中には、砂漠や南極など過酷な環境下に住む生きもの達もいます。そのような生物・植物はまさに摩訶ふしぎで、ページをめくるごとに驚くばかりです。『生きもの摩訶ふしぎ図鑑』はシリーズとなっており「忍者生物」、「深海魚」などもあります。生きもの達の生きる力を感じる一冊です。

### 美しい花の詩に身も心も癒されて！



#### 『野土花ものがたり』 澤田直見／著

やさしい色使いの文字で表現されており、読み進めるうちに心が安らぎ、穏やかな気持ちになります。右ページからはうさぎとかめが出てくるイラスト詩集、左ページからは目線を少しずらして気づいた澤田さんの世界観を垣間見ることができる写真詩集となっています。鳥取県にある小さな村から届いた、野土花（のどか）な時間と生命の息吹をお楽しみ下さい。

#### 『花よりも小さく』 星野富弘／著

不慮の事故で手足の自由を失った著者が、わずかに動く口で一筆一筆書いた詩画と近況を語るエッセイが収められています。四季折々の可憐な花々に寄せて語られる言葉には誰もが励まされるのではないのでしょうか。生命のすばらしさを感じ、前へ一歩踏み出す勇気が湧く花の詩画集です。その他に『速さのちがう時計』『鈴の鳴る道』『あなたの手のひら』があります。

やよい図書館では特色コーナーで詩を紹介しています。下記の本も借りることができます。

#### 《特色コーナー》

- ★『花の詩集』 串田孫一・田中清光／編 筑摩書房
- ★『つぼみたくさん』 堀明子／著 草思社
- ★『金子みすゞ童謡集』 金子みすゞ／著 角川春樹事務所
- ★『以心伝心 言わぬが花』 瀧井康勝／著 芙蓉書房出版

